

## 【知事定例記者会見】 4月14日

### ● コロナ対策

ループ感染が再拡大し、一旦、減少した病床使用率も増加傾向に転じている。佐賀県は、人口当たりの陽性者数が高い。若年層の感染が中心で、20代以下の陽性者が5割、40代以下では8割を占めている。オミクロン株では、50代未満の重症者は出ていない。ほとんどが、発熱、咽頭痛などの軽症、あるいは無症状。

陽性者数が多い要因は、15歳以下の人口比率が全国で第3位であることや、外来受療率が第1位という環境も関係していると推察している。

感染者数が増え続けると、高齢者への感染も増え、病床もひっ迫しかねない。本日、病床使用率が30%を超える。県民一丸となって基本的な感染症対策を励行し、病床使用率を抑えたい。

ワクチン接種は、重症化を防ぐ効果をもたらしている。3回目のワクチン接種は、65歳以上の接種率が87.6%。12歳以上20歳代以下の接種率は16.4%。若い人は、オミクロン株に感染しても症状が軽いからと、ワクチン接種を避ける傾向がある。しかし、家族や高齢者に広がる可能性があるため、可能な限り接種をしてほしい。

今後も、高齢者の状況、病床使用率を注視しながら対策を打っていく。

### ● SAGA Ukeire Network ～ウクライナひまわりプロジェクト～

3月9日から、県、市町、CSOとともに官民連携で準備してきた。県内には、全国規模で活動しているCSOがあり、そのネットワークは誇りであり大きな財産。官民一体で、ウクライナ避難民の就労、子どもの教育などの問題をワンストップで支援していく。これまでの経験から、行政だけではきめ細かい支援に欠ける。お互いの強みを活かし、県が全体調整をとり、佐賀らしい温かい支援をしたい。

受け入れ支援プログラムは、個別対応型と募集型の2つ。個別対応型は、県、市町、CSOに寄せられる個別相談の案件。募集型は、日本ウクライナ友好協会を通じて佐賀県への避難希望者を募集する。どちらの場合もワンストップで諸問題を包括的に支援す

る。

当面は、県の宿舎に入れる 30 組を受け入れ、状況を見極めながら増やしていく。

ビザの発給期間は、短期 90 日間と就労ビザ 1 年の延長ができると国が決定した。県内の企業約 40 社から受け入れの申し出がある。就業につながるよう環境を整えたい。

経費は、義援金、寄付金、クラウドファンディングなどで当面賄う。

本日受け入れる 20 代女性 2 人は、SNS で窮状を発信し、佐賀県の CSO が認知した個別対応型の 1 組目。保育関係、デザイン関係の仕事の経験がある。職員によると、日本語の会話に問題ないとのこと。明日の 15 時 15 分に CSO のメンバーとともに県庁でお迎えする。佐賀県だからできる支援をしたい。

#### ● 大隈重信の「志」が込められた高輪築堤が佐賀の地によみがえります

去年は、大隈重信 100 回忌の節目だった。同じ年、JR 東日本が高輪ゲートウェイ駅を造る工事で、もとあった線路を掘り返したところ、大隈重信が日本で最初に鉄道を引いた、海の中にある築堤跡がそのままの形で出土した。まさに奇跡の巡り合わせだと感じ、当時の萩生田文科大臣に保存の相談をした。また、一部を佐賀に移築するため、学芸員を文化庁に派遣した。

かつて、佐賀で鍋島直正公とともに、蒸気のパワーを目の当たりにしていたからこそ、人力車や飛脚の時代に、鉄道を海に通すという発想力と構想力が生まれたのではないか。現在のコロナ禍で、先を見据える発想力と実行力は見習うべきところ。

再現展示は、メイン展示を県立博物館、サテライト展示を大隈重信記念館と早稲田佐賀中学校・高校に置く計画。関係する施設は、佐賀城本丸歴史館と弘道館跡地。

築堤が出土したのは、泉岳寺駅周辺。第 7 橋梁は現地保存され、第 7 橋梁の南側部分につながる場所から出土した石垣を博物館の裏に移設する。

メイン展示の博物館内には、大隈重信が語りかけるようなドラマ展示。サテライト展示は、大隈重信記念館と早稲田佐賀中・高校に石を展示する。

4 月 15 日 9 時からオープンセレモニーを実施する。大隈の「志」を未来へつなぎ、時代を切り拓く力にしたい。

- くすかぜ広場が生まれ変わります

佐賀県では「歩くライフスタイル」を推奨している。これまでも、まちあそび人生ゲーム、デジタルスタンプラリー、夜歩きアート県庁、SAGATOCOなどを企画した。くすかぜ広場を、歩く楽しさを感じてもらう新たな拠点に位置付ける。

リニューアルされた広場は、カフェスペース、物販施設、イベント開催時のマルシェ、パブリックビューイング、キッチンカーが入るスペースも準備している。隣のNHKは、5月に移転が完了する。この広場からも全国へ発信してくれるだろう。

コンセプトは「歩く楽しさを感じてもらう」拠点。佐賀の八賢人とのまちあるきイベントの開催、スタンプラリーのポイントを使える場所、お堀周辺のウォーキングコースなど歩く拠点として、くすかぜ広場を位置付けたい。

くすかぜ広場の愛称は「ARKS（アルクス）」。“歩く”と“楠”をかけて、アルクス。オープニングイベントは、5月14日（土）。ウォーキングイベントを、その土日に開催する。

- 県庁北側エントランス（旧館前）をリニューアル！

県庁の表札を佐賀らしく有田焼で新たに制作、5月中旬に完成予定。佐賀県の柔軟性と先駆性、海と山を表現した形に。

- SAGA アリーナオープンまであと1年 MICE（マイス）の殿堂を目指します

SAGA アリーナの収容人数が8,300人、文化会館と合わせると1万人規模でのMICEの開催が可能になる。2億円規模の消費行動とも言われている。

5月30日に、MICEのシンポジウムを開催する。関心のある方はぜひ参加を。

- あなたの未来、そして、家族のために がん検診の受診を！

県内の死亡原因の1位はがん。年間約2,700人が、がんで亡くなっている。コロナ禍で、検診控えが起きている。がんは、早期発見と早期治療で9割以上完治する。40代以

上の方はぜひ検診を。古賀稔彦さんの家族も「がん検診は不要不急ではない」と呼びかけている。

4月から、市町で実地している胃がん検診（胃の内視鏡検査）が、県内どこでも受診可能になった。相談は、がんの悩み相談ダイヤル（0120-246-388）まで。

- 全国を席卷した吉野ヶ里フィーバー再び！ 国の特別史跡 吉野ヶ里遺跡  
いよいよ、謎のエリアに30年前にできなかった調査の手が！

30年前、日吉神社のエリアは、神社を移転できず未発掘だった。今回、日吉神社の移転準備が整ったため、発掘調査を開始する。このエリアは18年前、近辺で貴重な品が出土。神社跡への関心が高まっている。邪馬台国に関係する出土品が出てくる可能性も。

5月3日 10時から「吉野ヶ里未来につなぐ鋤入れ」式を行なう。8日までのゴールデンウィーク期間中は特別公開する。

歴史的発見の夢が詰まっている吉野ヶ里遺跡に注目いただきたい。